

和歌山市加太で採集されたヒメツバメウオ

揖 善継^{1)*}・脇本 総志²⁾

Yoshitsugu KAJI and Soshi WAKIMOTO: Record of moonfish, *Monodactylus argenteus* (Pisces, Monodactylidae) from Kada, Wakayama City, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

スズキ目ヒメツバメウオ科 (Perciformes: Monodactylidae) には、世界に2属6種が確認されており、アフリカ西部とインド太平洋域の海域及び汽水域に分布する (NELSON *et al.*, 2016)。ヒメツバメウオ *Monodactylus argenteus* (LINNAEUS, 1758) はヒメツバメウオ属 (*Monodactylus*) に属し、本邦をはじめ、台湾南部、福建省、海南島、カロリン諸島 (ミクロネシア)、サモア諸島 (ポリネシア)、オーストラリア、紅海、ペルシャ湾、マダガスカル、アフリカ大陸東岸の西部太平洋からインド洋にかけて、主に熱帯の浅海域を中心に分布する (波戸岡, 2013 ほか)。本邦では、屋久島および沖縄島以南の琉球列島では多くの記録が残されているが (吉郷, 2014)、本州では記録が少なく、標本に基づくものとしては1999年に和歌山県西牟婁郡白浜町袋で (山本

ほか, 2000)、2015年には千葉県勝浦市、2016年には神奈川県藤沢市で (山川ほか, 2017) それぞれ稚魚および幼魚が記録されている。著者は和歌山県和歌山市加太において、標本に基づく本州4例目、和歌山県内2例目かつ紀北地方初記録となる本種の稚魚を採集したので、ここに報告する。

材料と方法

標本は2018年10月12日、和歌山県和歌山市加太の加太漁港内で、著者の一人脇本が手網を用いて採集した。その後、和歌山県立自然博物館へ持ち込み、体色等の観察および生時の写真を撮影後、10%半海水ホルマリンで固定し、70%エタノールで保存した。体各部の計数は実体顕微鏡 (NIKON SMZ-10) 下で行った。計測は中坊・中山 (2013) および、沖山 (2014) に従い、デジタルノギス (Mitutoyo CD-20CPX) を用いて0.1 mmの精度で



図1 和歌山県和歌山市加太で採捕されたヒメツバメウオ, WMNH-PIS-10537, 標準体長9.5mm。

Fig.1. *Monodactylus argenteus* (LINNAEUS, 1758) from Kada port, Wakayama, Japan. WMNH-PIS-10537. 9.5 mm standard length.

^{1)*} 〒642-0001 和歌山県海南市船尾370-1 和歌山県立自然博物館 kaji_y0001@pref.wakayama.lg.jp

²⁾ 〒649-6245 和歌山県岩出市中島581-3A

行った。

なお、本研究に用いた標本は和歌山県立自然博物館 (WMNH: Wakayama Prefectural Museum of Natural History) に保管されている。

Monodactylus argenteus (LINNAEUS, 1758)

ヒメツバメウオ (図 1)

標本 WMNH-PIS-10537, 標準体長 9.5 mm, 和歌山県和歌山市加太 加太漁港内, 水面直下, 2018 年 10 月 12 日, 手網, 採集者: 脇本総志。

記載 背鰭 8 棘 29 軟条; 臀鰭 3 棘 29 軟条; 胸鰭 16 軟条; 腹鰭 5 軟条。

体各部の標準体長に対する割合 (%) : 体高 53.7; 肛門前長 62.8; 頭長 44.2; 眼径 20.0; 吻長 9.5; 背鰭基底長 52.6; 背鰭高 24.2; 臀鰭基底長 37.9; 臀鰭高 15.8; 胸鰭長 20.0; 腹鰭長 42.1; 尾鰭長 32.6。

体高は高く、側偏する。目は大きく、やや吻端よりに位置する。口は端位で下顎がやや前に出る。外部前鰓蓋棘は発達し、下縁にやや不揃いの大きさの小棘が 8 棘、角部にやや大きな 1 棘、後縁にごく小さな 3 棘がある。内部前鰓蓋棘はわずかに鋸歯状をなす。肛門は体のほぼ中央、臀鰭起部の直前に開孔する。背鰭高、臀鰭高はともに高く、最大で体高の 29.1, 29.4 %。ともに第 1 軟条付近で最も高く、尾側に行くに従い低くなる。尾鰭は角の丸い截形。腹鰭は長く、臀鰭第 6 軟条基部に達する。

体部の鮮時の色彩は、吻部、および背鰭後半の基部から鞍状をなす白色部を除き、黄褐色の地色に黒色素胞、赤色素胞が散在し、その密度により、色の濃淡があり、淡褐色から濃褐色。背鰭始部から主鰓蓋骨、胸鰭基部、峡部、喉部、腹鰭基部に掛けては黒色素胞が密に分布し黒帯様をなす。眼上部および尾柄部には赤色素胞が密に分布し、赤帯様をなす。なお、水槽観察によると、黒色素胞内のメラニンが拡散、凝集することによって体色が変化し、白色部および透明な鱗膜を除く体全体が、ほぼ黒色となる様子が観察された。背鰭は始部より第 15 軟条までの基部側、第 3 棘の高さまで濃色をなす。第 3 棘より第 1 軟条までの末端側、第 2 軟条より第 15 軟条までの濃色部の外側、第 16 軟条より第 22 軟条までの基部は白色。白色帯は第 2 軟条より尾部側ほど狭くなる。第 2 軟条より、第 22 軟条の白色域の外側、および第 23 軟条より 29 軟条は透明。胸鰭、尾鰭は透明。腹鰭は濃褐色に赤色素胞が散在する。臀鰭は棘部および第 1 軟条より第 18 軟条の基部側が濃褐色。第 1 軟条より第 22 軟条までの濃色部の外側は白色帯をなし、その幅は第 2 軟条で最も広く軟条長の約 5 分の 3 で、尾側ほど狭くなり、

第 22 軟条で軟条長の約 5 分の 1。第 3 軟条以降の外側は透明。

備 考

本標本は、体高が高く側偏し、背鰭が 8 棘 29 軟条、臀鰭が 3 棘 29 軟条、であることから岡・木下 (2014) の記載とよく一致し、ヒメツバメウオ *Monodactylus argenteus* (LINNAEUS, 1758) に同定された。本種の成魚は体長約 14cm で、腹鰭は退化的のごく短い (波戸岡, 2013) が、本標本は標準体長 9.5mm で、各鰭の鰭条は全数が出そろい、発達した腹鰭を持つことから、稚魚期に該当する (岡・木下, 2014)。

本種はこれまで、屋久島以南の琉球列島では多く確認されていたが (波戸岡, 2013; 吉郷, 2014 など)、1999 年 8 月 4 日から 9 月 7 日に、和歌山県西牟婁郡白浜町で 6 個体が採捕され、本州初記録となった (山本ほか, 2000)。その後、2015 年 8 月 9 日に千葉県勝浦市で 1 個体、2016 年 4 月 16 日には神奈川県藤沢市で 1 個体が採捕されている (山川ほか, 2017)。本報告はこれらに続き、本種の本州における標本に基づいた 4 例目の記録となる。また、和歌山県からは 2 例目、紀北地方からは初の記録となる。

考 察

本州においてこれまでに記録されたヒメツバメウオは、標準体長 19.6 ~ 53.2 mm で、いずれも稚魚期もしくは幼魚期である (山本ほか, 2000; 山川ほか, 2017; 本研究)。また、本種の成魚は沖縄県宮古島以南に分布することから (岡・木下, 2014)、本州で確認されたヒメツバメウオは成魚の生息地である南西諸島などから黒潮によって輸送され、冬季の低水温で死亡する無効分散 (松浦・瀬能, 2012) と考えられる。本標本が得られた直前の 2018 年 10 月 9 日には、紀伊半島西岸に沿って黒潮本流より水温 25 ~ 6℃ 台の暖水が流入しており (和歌山県水産試験場, 2018)、本標本もこのような暖水の流入によって紀伊水道北縁となる和歌山市加太まで輸送されたと考えられる。近年、本州で本種の採捕記録が相次いでいることから、和歌山県沿岸にも散発的に本種の仔稚魚が来遊していると考えられる。今後は、和歌山県沿岸において本種の仔稚魚の出現の有無とともに、大型個体の生息が確認されるかなどの調査を継続したい。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、脇本朋子氏、加太漁業協同組合の茨木信明氏、坂東俊哉氏には採集、調査にご協力いただいた。ここに御礼申し上げます。

引用文献

- 波戸岡清峰. 2013: ヒメツバメウオ科. *in* 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 987, 2021. 東海大学出版会, 秦野.
- 松浦啓一・瀬能 宏. 2012: 黒潮と魚たち. *in* 松浦啓一編著. 叢書・イクチオロギア② 黒潮の魚たち. 3-16. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・中山耕至. 2013: 魚類概説 第三版. *in* 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 3-30. 東海大学出版会, 秦野.
- NELSON J. S., T. C. GRANDE & M. V. H. WILSON. 2016: Fishes of the world fifth edition. 748pp. John Wiley & Sons, Inc., Hoboken.
- 岡慎一郎・木下 泉. 2014: ヒメツバメウオ科. *in* 沖山宗雄編. 日本産稚魚図鑑. 第2版, 896-897. 東海大学出版会, 秦野.
- 沖山宗雄編. 2014: 日本産稚魚図鑑. 第2版. 1912pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 和歌山県水産試験場. 2018: 人工衛星海況速報 (2018-92号). 和歌山県水産試験場, 串本.
- 山川宇宙・坪 健人・酒井 卓・三井翔太・瀬能 宏. 2017: 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類5種. 神奈川自然誌資料, (38), 77-82.
- 山本泰司・太田 満・田名瀬英朋. 2000: 袋湾 (紀伊半島南西部)より収集したヒメツバメウオと飼育経過. 瀬戸臨海実験所年報, 13, 32-35.
- 吉郷英範. 2014: 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. Fauna Ryukyuana, 9, 1-153.